



今後、ますます少子高齢化が進み、人口が減少する日本。菰野町も例外ではありません。これから、このまちで公共交通をどのように存続させるべきなのか。菰野町地域公共交通会議で座長を務める名古屋大学の加藤教授にお話を伺いました。

最適な交通手段を選定する

**公** 公共交通機関には、いろいろな種類があります。それぞれの役割を明確にし、適した公共交通を運行させ、組み合わせることが重要です。例えば、大量輸送に向いている公共交通は電車、バス。一方で、行きたいところに行くことができる交通手段はタクシーが思い浮かぶでしょう。公共性の観点から言えば、たくさんの人を乗せることができる交通機関の方が公共性が高く、運賃も安くすることができますが、一方でたくさんの人が一度に乘れるよ

うに運行時間や経路を逐一見直して、その時々にあった運行を目指していかなければなりません。ただし、電車やバスも誰も乗っていないければ、空気を運んでいるだけでお金がかかり、二酸化炭素の排出量も多く、環境にもやさしくありません。そのため、人がたくさん行くようなところはバスや電車で、他はタクシーで、といったように最適な交通手段を選択する必要があります。加えて、菰野町にはバスとタクシーの中間を埋める存在に「のりあいタクシー」があります。のりあいタクシーは電車の駅やバスの停留所に比べて遥かに多くの場所で乗り降

## 公共交通という選択肢を

### これから先に残す

で、新しい選択肢になります。

#### 車を持たなくなる時代に

**現** 在は一人一台、車があるような時代ですが、通信技術の発展で車を持たなくなる時代、もしくは自動運転技術の躍進やカーシェアリングなどで使いたい時だけ車を



▲ MaaS をスタートさせる記者発表の場でその価値を伝える加藤教授

使って複数の公共交通機関の経路や乗車時刻が一目でわかるようになっていけば、使いやすい。そのための技術が菰野町で令和元年度から整備を進めている MaaS システムです。AI による経路検索から予約、利用料金の決済までできるようになれば格段に公共交通が利用しやすくなるでしょう。異例に近いことですが、菰野町は令和元年度に引き続き、令和2年度も国土交通省の MaaS 推進・支援事業に採択されました。これは自治体主導で推進する昨年度の取り組みが評価された結果でもあり、今後、菰野町の実績が先進事例になっていくかもしれません。

#### 有意義な場と時間にするため

**公** 公共交通機関のほとんどは、車内に冷暖房を完備しています。加えて駅や車内に Wi-Fi による通信環境や電源が整備され、駅や主要バス停に椅子と机があれば、ビジネスマンや学生がパソコン作業や勉強などを行うことができます。移動時間や待ち時間も無駄ではなくなります。こういった過ごし方は、自ら車を運転しては決してできません。人が集い、まとまって移動するからこそ、



▲ 10月から町コミュニティバスの車内にWi-Fiを整備し、より快適に移動できるようになります。

そでできる公共交通の利点のひとつです。菰野町では、利用しながら快適に過ごせる環境整備も含め、これからも選択していただける公共交通を目指して、力を入れていくと思います。住民の皆さんも公共交通機関で移動するという選択肢があることを頭の片隅に置いておいてください。そして、使えるなと思えるタイミングがあれば、使ってみてください。そこで「意外に使えるな」という新たな発見があるかもしれません。

## 使ってみることで 新たな発見があるかもしれない

### Profile

岐阜県多治見市出身。名古屋大学工学部を卒業し、同大学院工学研究科で博士号取得。平成13年に大学院環境学研究科助教授、平成29年に教授に。国土交通省の交通政策審議会委員も務める地域公共交通研究の第一人者。平成29年6月から菰野町地域公共交通会議の座長を務める。

### 選

択できる公共交通がある場合、スマートフォンなどを

#### MaaSでさらに使いやすく

使用する時代がいつれやってくる。そんな時代に、どこかにおいてけしたいとなった場合の選択肢のひとつとして公共交通を残しておく必要があります。そして、公共交通の選択肢は多い方が利用者にとって、使いやすくなります。今は公共交通を利用することが少なくとも、年を重ねた自分たちや、さらにはその次の世代の人たちがこの地で過ごしていくことを考え、公共交通を残すことが、現在の我々の責務であるようにも感じています。



各地区区長会長、交通事業者などで構成され、バスの路線変更やダイヤ改正、のりあいタクシーの乗降場所などを検討し、決定しています。



▲ 令和2年度第2回菰野町地域公共交通会議の様子

# 名古屋大学 加藤博和教授

菰野町地域公共交通会議 座長

